



学生数 / 4387人 教員数 / 258人 職員数 / 137人
 学部 / 言語文化、国際社会
 大学院 / 総合国際学研究所
 THE世界大学ランキング日本版2017 / 総合27位、国際性6位

IRカルテ

【IR組織と所属】経営戦略情報本部(役員会直属)
 【構成員】本部長(理事)、副本部長(学長補佐、教員)、委員(教員3人、職員3人)
 【主な業務】経営戦略のための情報の収集・分析 / 情報分析に基づく教育研究および業務の高度化の企画・立案

IRの目的	▶ 自学における諸活動に関する情報を収集・分析することにより、教育、研究および業務の高度化を図ること
データの収集・共有	▶ 留学・入試・学業成績・就職・科研費・予算などの各部署で保有しているデータを必要に応じて取得し、分析している
執行部や学部への報告と活用のされ方	▶ 経営協議会において「就職状況と入試状況」を担当理事から報告 ▶ 総合戦略会議において「入試成績とGPA」の分析結果を担当部長から報告 ▶ 科研費の獲得状況に関して分析し、研究戦略検討ワーキンググループに資料を提供 ▶ PODS部会(下コラム参照)において統計学的視点から定期的に助言
成果例	▶ 留学に関する分析結果を「留学白書」として発行、学外へ情報公開 ▶ 統計学的視点からアンケート調査の方法を見直す ▶ ポートフォリオに蓄積されたデータの分析や活用を推進

注目! 全学横断の部会(PODS部会)を組織し、eポートフォリオの運用を推進する

成績等のデータは既存のシステムと連動

eポートフォリオのデータは、大学が管理するものと学生本人が入力するものの2種類がある。履修科目と成績、GPAなどは、大学が運用する「学務情報システム」から自動的に入力される。学生が入力できるのは課外活動等の記録や、毎学期の目標設定とその振り返りだ。ディプロマ・サプリメントには大学として保証できる客観データのみが記されるが、課外活動等の記録は就職活動で活用できるよう、学修活動履歴書に記載される。

IR部署と連携しデータの可視化に取り組む

取り組みを主導しているのはPODS部会(Portfolio and Diploma Supplement)。全学横断で教育を統括する教育アドミニストレーション・オフィスの直属の組織で、副学長や学部長、各課の課長を含む十数名の教職員で構成される。IRを担当する経営戦略情報本部の職員もメンバーとなっており、ポートフォリオのデータの分析などで連携し、分析結果を教学改善にも生かす考えだ。

ディプロマ・サプリメント(一部)

学修活動履歴書(一部)

※上図は開発中のものです。

学修成果の可視化

ディプロマ・サプリメント 4年間の学修活動の質を保証 東京外国語大学

学修成果の記録、成長の可視化に
 取り組む東京外国語大学。
 この取り組みの背景と
 期待する成果について聞いた。



言語文化 学部長 八木久美子

やぎくみこ ● 1982年東京外国語大学外国語学部アラビア語学科卒業。1993年東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学専攻中退。1993年ハーバード大学文理大学院宗教学専攻。1996年東京外国語大学外国語学部助教授、2004年同部教授、2017年より現職。

学生が身に付けた 多様な能力を社会に示す

本学では学生の学修活動を、eポートフォリオに記録し、卒業時に「ディプロマ・サプリメント」として発行する取り組みを2016年度から開始しています。

本学は「言語の専門家を育てる大学」というイメージで捉えられがちですが、実際は言語だけでなく、国際関係や社会学、歴史学、文学、思想なども学び、特定地域の専門知識を身に付けた人材を育成してきました。しかし、これまでの学位・成績証明書では、「学んだ言語を使って何ができるのか」「どのような専門知識を持っているのか」がわかりづらいという問題がありました。そこで、学生が身に付けた能力を具体的に示せるよう、この取り組みを始めま

した。
 eポートフォリオのカテゴリリーは、ディプロマポリシーから導き出した「言語運用能力」「専門力」「行動・発信力」の3つに分けています。

「言語運用能力」は英語や専攻言語の達成度を外部検定試験のスコアも表示しつつ、CEFR²⁾のレベルを示すことで、4技能に「話すこと(やりとり)」を含めた³⁾5技能が具体的にどの程度あるのか、把握できるようにしています。「専門力」では、専門科目の履修状況、取得単位数、GPAなどが示されます。「系統立てて科目を履修しているか」「重点的に学んだ分野は何か」などが把握できます。

「行動・発信力」には、海外留学の履歴やインターンシップ、ボランティア活動の記録のほか、思

考力の評価として「GPS Academic」の成績も記載しています。というのも、大学での学修成果である思考力は、グローバル社会で活躍するために必要な力であり、企業が求める力でもあるからです。卒業時にこれらのデータを集約してディプロマ・サプリメントを発行しますが、3年終了時には、それまでの経過を記載した「学修活動履歴書」を取得できます。これは、就職活動時の活用を想定したもので、前述のデータに加え、受賞歴や課外活動(サークルや部活動)、アルバイト経験など、学生本人の入力データが反映されます。

履修状況を分析し 授業改善に生かす

学修成果の可視化は、社会に対する質保証という役割のほか、学

生本人にもメリットがあります。客観的なデータを示すことにより、自らの成長を実感できるからです。また、自分の強み、課題が可視化されていけば、進級時に「次は何を学修すればよいのか」を考えるきっかけにもなります。

教員側から見ても、自らが提供している教育が学生にどう影響しているかを把握できる点に意義があります。これまでは自分の担当する授業が学生の中でどう位置付けられているのか、想像するしかありませんでしたが、eポートフォリオの履修状況を分析すれば、担当科目がどのようなつながりの中で履修されているのかが把握できます。これにより、教員が授業の中で意識することも変わってくるでしょう。授業改善に加え、カリキュラム改善にも活用できると期待しています。

*1 ヨーロッパで導入されている学位の内容を説明・証明する証書。
 *2 日本の英語教育での利用を目的に開発された言語力の到達度指標。欧州共通言語参照枠(CEFR)の6レベルをベースにした12レベルで構成。
 *3 「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」「書くこと」の5つ。
 *4 株式会社ベネッセキャリアが提供する思考力アセスメント。「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」を測る。